



Title	コインブラ大学旧図書館におけるジャパニングとシノワズリーの意匠に関する考察
Author(s)	井谷, 善恵
Citation	デザイン理論. 2016, 67, p. 88-89
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56377
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

コインブラ大学旧図書館におけるジャパニングとシノワズリーの意匠に関する考察

井谷善恵／東京藝術大学

はじめに

ポルトガルのコインブラ大学旧図書館 (*Biblioteca Joanina* 以下旧図書館) は、1717-28年ジョアン5世 (1689-1750) の治世中に建築された。図書館の内部は天井部分を除いて、柱や壁本棚などがジャパニングと呼ばれる黒や朱の塗料の上にシノワズリーが描かれている。今回図書館内の全パネルをモチーフ別に分類し、ジャパニングとシノワズリーについて考察し、当時のポルトガルの東方観あるいは世界観について考察する。

1. 植民地ブラジルとポルトガルの栄光

植民地ブラジルでは1693年以降金鉱が次々に発見され、それがほぼジョアン五世の治世中に相当し、ポルトガルの繁栄は頂点に達する。ブラジルから運ばれた金はポルトガルにおける金泥木彫としてバロック美術を装飾し、また旧図書館ではジャパニングと呼ばれる日本製漆を真似た倣製漆の塗料の上に金彩でシノワズリーが描かれた。

2. コインブラ大学旧図書館

コインブラ大学は1290年にポルトガル王ディニス1世 (1261-1325) によって設立され、現在の建物は元の王宮の部分の中心に1717-1728年に建築された。旧図書館の建物はバロック様式で、全体を三室に分け、二階にも本棚が並ぶ。一つの大きな長方形が三つの長方形の間に区分される。内部三室のうち、手前と奥の部屋の内寸は縦10.14m、真ん中の部屋が10.46mで、横の内寸は三室共通で4.5m。また壁や本棚は一番手前と奥が漆黒、

真ん中が朱でジャパニングが彩色される。

第三室最奥壁面にはドメニコ・ドゥプラ (Domenico Duprà, 1689-1770) 作ジョアン五世の肖像画がある。建築を最初に手掛けたのは大学の主任建築者ジョアン・カルヴァーリョ・フェレイラであったが、その後ガスパール・フェレイラが総監督として任命されたとされ、フェレイラは1718年に建築と本棚設計を任された。シノワズリーを手掛けたのは、装飾画家マヌエル・ダ・シルヴァ (Manuel da Silva) で1723年にその任務を受けその後40ヶ月かけて仕上げた。

3. ジャパニングとシノワズリー

ジャパニングの漆黒と朱色は、シノワズリーを描く上でその金彩を引きたて、かつ日本やアジアの漆に似せた最適な色の選択であった。ジャパニング塗料は当時ランプブラック (Lamp black 油煙黒色絵具) と呼ばれる油煙を集めたものが使われた可能性が高い。類例としてオランダにおける最古のジャパニングの例とされる17世紀初頭のキック工房の櫃がある (オランダ国立博物館蔵)。この櫃に関する論文によればランプブラックは漆器の黒を真似るのに最も一般的に使われた顔料であった。イギリスのジョン・ストーカーとジョージ・パーカーによる "A Treatise of Japanning and Varnishing" (1688年ロンドンで初版刊行) にランプブラックについて詳細な記述があり、また旧図書館のシノワズリーのモチーフはジャパニングとともにこの書籍からの影響も考えられる。

壁面のパネルの数は、三室あるすべての室

の一階28枚（扉部分の4枚を含む）と二階84枚で、計112枚で、三室あわせて336枚であり、そのパネルすべてにシノワズリーが描かれる。336枚に描かれた意匠のモチーフをH=Human（人物）、F=Flower（花）、B=Bird（鳥）、P=Pagoda（建物）、T=treeに分類した。パネルにもっとも多く描かれたモチーフは花であり、それらは芙蓉、スイレンなど判別できるものもあるが、その多くは類型的で特定できないものが多い。花単体は全パネル336枚中107枚で、以下「鳥と花」が60枚、「花と人」が37枚、「鳥と花と人」が19枚と続く。このように人と他のモチーフとの組み合わせが中心を担い126枚で全体の37%となる。人数は最大四人までで、単数あるいは男女および親子が見られる。行動としては釣り、鳥を追う、舟遊び、楽器の演奏、お茶を飲むなど多様であり、髪型や表情及び服装で性差が判別可能なものもかなりある。西洋人風やベトナムなどの様々な顔立ちも見られる。

コインブラ大学におけるジャパニングとシノワズリーの他の作例として、1901年建築の法学部図書館の中にチャイニーズルーム（Sala Chinesa）（1901年）と呼ばれるほぼ正方形（内寸横5.99×横5.71m）の部屋がある。天井も含めて背景が緑色のジャパニングにシノワズリーで、旧図書館との差異は天井が西洋世界を表現していた旧図書館とは違ってシノワズリーが描かれ全体の統一がみられる。

おわりに

東西の文化や美術の交流史においては、西洋と東洋の相互影響を考えがちであるが、当時の交易による延展は双方向に限ることのない拡がりを持っていた。旧図書館は、ブラジルから運ばれた金と木材を元に建築され、外観はあくまでもヨーロッパンのバロック様式でありながら、内部にはシノワズリーが描か

れた。天井部分は宗教的あるいは神話をもとにした寓意の世界だが、その下部は俗世として南蛮の漆に似せた黒と朱の地にシノワズリーを用いた東方観で作られた。旧図書館はジョアン五世の栄光を示し、交易により得た繁栄の頂点を示すが、それは西洋の優位性を示しただけではない新しい融合性も示唆し、当時の世界のものの動きと人的交流の中で、東洋と西洋の双方向の関係性を超えた海域史の視点から今後の研究の一つの重要な切り口となっていくと考えられる。

主要参考文献

- Amaral, A. E. Maia, *Tesouros Da Biblioteca Geral Da Universidade de Coimbra*, 2011
 Canhão, joel & Duarte, Daniel, *O Órgão barroco da Capela da Universidade de Coimbra*, Imprensa Da Universidade de Coimbra, 2007
 Fiolhais, Paulo, *Biblioteca Joanina da Universidade de Coimbra*, Coimbra University Press, 2013
 Impey, Oliver, *Chinoiserie*, Charles Cribner's and Sons, 1977,
 Silva, Manuel, *Libório, Bibliotecas Marvilhas de Portugal*, Centro Atlantico, Pt. 2013
 Simões, Pedro, Faculdade de Directo *Universidade de Coimbra*, Gráfica de Coimbra Lda. 2013

- 金七紀男『ポルトガルの歴史』河出書房新社 2011年
 中島楽章編『南蛮・紅毛・唐人』思文閣出版 2013年
 日高薫『異国の表象』ブリュッケ 2008年